

これまでの電力を固定価格で買い取るFIT制度に加えて、2022年からはじまったFIP制度。上手に活用すればインセンティブのもたらえるFIPについて善さんに聞いていきます。

Q EV社会に対応し、リフォーム業界最後に残されたブルーオーシャンであるエネルギーリフォームで抜きんするため必須の知識「FIP制度」について教えてください。

A FIP制度はひと言でいうと通常の市場価格に補助額(プレミアム)が付き高く売電できる仕組みです。

2011年東日本大震災によって我が国は原発という安定した電源を喪失しました。その足りない電力を補填するために2012年に「FIT(固定価格買取制度)が導入され、太陽光発電など再生可能エネルギー(再エネ)は加速度的に普及しました。そして国内のありとあらゆる場所に太陽光パネルを目にするようになった現在、日中晴れた日に電気が余り、電力会社は「出力制御」と言って買い取り拒否をする日が増えていくのです。一方で夜には電気が足らなくなっています。今後再エネを主力電源としていくためには、需要と供給のバランスなど電力市場の状況を踏まえた発電を行う必要があります。

そこで日中発電した電気を一旦蓄えておいて足りない夜に市場価格で、割増金(プレミアム価格)として補助金を上乗せした金額で売ってくださいという新たな制度が「FIP(フィ

金持ち父さんの住む「蓄電住宅」の時代に突入!?



Esyee Energy
加藤善一社長

独自の技術によるスマートハウス「Smart2030零和の家®」を全国の工務店に波及する。2021年絆ジャパンとの提携により参画企業も150社を超える。新築のみならず既存住宅のスマートハウス化を訴求している。

ードインプレミアム(Feed in Premium)です。再エネの導入が進んでいる欧州などで導入されており、日本では2022年4月より既に高圧の発電所で始まっています。

今後、EVの導入が加速すれば家で所有する電力量は100kWh以上になります。

発電所、変電所、需要家という流れから、電気を所有している家から直接電気の足りない家へ電気を売ることが始まります。「FIP制度」が低圧でも始まった時には、電気をたくさん所有(蓄電)できる家であればたくさん収入がもらえる時代へとシフトするでしょう。EVのリチウムイオン電池の弱点である漏電、暑さ対策を解消するEVソーラーカーポートは新たなリフォーム市場を生みだしています。

これからは、電気が逼迫して電力会社に電気が足りない夜に高額で電気を自動(AIクラウドHEMSで制御)で売れる「蓄電住宅」が優位です。